共生社会、持続可能社会

発見！わがまち SDGs

集まった古布を前に、裁断を担当する事業所関係者らと言葉を交わす川上冴華専務（左から2人目）

古布集め雑巾に活用

本県の民間企業で、「持続可能な開発目標（SDGs＝エスディージーズ）」の「つくる責任　つかう責任」に関して取り組む機運が高まっている。盛岡市三ツ割の川上塗装工業（川上秀郎社長）は一般家庭から不要な古布を集め、工業用雑巾（ウエス）として再利用するプロジェクトをスタートさせた。地域を巻き込んだ資源循環の仕組み構築に一役買っている。

集める古布は綿のTシャツやバスタオル、ハンカチなどさまざま。縦約25センチ、幅約50センチの大きさに裁断し、同社の塗装工事など日々の業務に使用する。

裁断の作業は同市内の就労継続支援B型事業所「Micasa（ミカサ）」などに依頼し、障害者の雇用創出にもつながっている。

同事業所で作業に励む星野亜莉沙さん(35)は「だんだんイメージ通りに裁断できるようになってきた。少しでも助けになればうれしい」と話す。

プロジェクトは、同社の川上冴華専務(38)がカードゲームなどでSDGsへの学びを深める中で、「業務を通じて取り組めることはないか」と発案。同社の広告で呼び掛けたところ、3～5月に約90キロの古布が集まり、資源の有効活用に対する地域住民の関心の高さをうかがわせた。

出来上がったウエスは今後、インターネット販売も検討。販売の売り上げは、今後立ち上げる基金に積み立て、県内での社会支援活動や、貧困などに苦しむ海外の綿農家の支援に充てたい考えだ。

川上専務は「SDGsを通じて塗装業のイメージアップにもつながる。明日からでもできることを探していくことが大切だ」と強調する。

盛岡市、滝沢市、矢巾町エリアは古布の訪問引き取りにも応じる。問い合わせは同社（019・601・4014）へ。

（第2木曜日に掲載）

持続可能な開発目標（SDGs）　2015年に国連サミットで採択された国際目標。「誰一人取り残さない」を基本理念に、環境破壊や人権侵害をなくし、全ての人が豊かに暮らす世界の実現を目指す。男女平等や水資源・地球温暖化関連、経済成長など内容は多岐にわたる。「つくる責任　つかう責任」など17の目標と、具体的な取り組みとなる169のターゲットを掲げて普及を図っている。